別紙資料２　答申案

令和８年９月　日

厚木市長　山口　貴裕　様

厚木市生涯学習推進会議
会長　三和田　秀夫

第４次厚木市生涯学習推進計画の策定について（答申）

令和８年９月17日付で諮問のありました第４次厚木市生涯学習推進計画の策定について、慎重に審議をした結果、別紙のとおり答申いたします。

答　申

令和３(2021)年度から令和８（2026）年度を計画期間とする第３次厚木市生涯学習推進計画第１期基本計画では、こどもから高齢者までのあらゆる世代がいつまでも継続して気軽に生涯学習に取り組み、学んだ成果をいかせる環境を整備すること、また、学びの成果を地域課題の解決に向けて積極的に活用することで生涯学習をいかしたまちづくりを推進することを目指し、様々な生涯学習活動の充実や環境整備を図ってきた。

第３次厚木市生涯学習推進計画の策定時以降、新型コロナウイルス感染症の影響により社会生活は大きく変わり、オンライン講座の普及など学習方法の転換期を迎えるとともに、社会のあらゆる領域においてDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が進展したことで、生涯学習への参加が一層容易になった。

また、人生100年時代を背景として、リカレント教育（社会人の学び直し）を通じた生きがいの追求や、個人及び社会全体のウェルビーイングを向上させることが求められている。生涯学習を学術的教養に限らず、楽しみながら知識を得る活動の場として誰もが気軽に参加できる環境づくりや、実生活に密着した生活に役立つ学びの場として参加できる環境づくりを推進し、学びを通して社会全体の豊かさを創造していくことも求められている。

こうした社会情勢の変化に対応し、人生100年時代を意識した継続した学びによる個人のウェルビーイングの向上や、地域に関する学びを通したあつぎ愛の醸成、また、それらの個々の学びを共有することで、人と人とがつながり社会全体のウェルビーイングの向上を実現しようとする今回の計画案は、市の今後の生涯学習活動の方向性が的確に示されており、適切であると判断した。

今後、実施される予定のパブリックコメントの意見も踏まえ、市民の声を反映させた計画となるよう努められたい。

本答申は、委員から提起された意見に基づき、本会議の総意としてまとめたものである。計画の推進に当たり、特に次の項目に配慮されたい。

1　広報あつぎや市ホームページ、公式SNSなどを効果的に活用し、市民が学びのきっかけとなるイベントや講座の情報を手軽に得ることができるよう、情報発信の強化にさらなる工夫をされたい。

2　こどもから高齢者まで、個人のニーズに叶う学習機会の提供に努められたい。なお、その際、世代ごとの意識や趣向の違いに留意した取組を進めるよう努められたい。
　また、小・中学生については、生涯学習に関するアンケート調査の結果から、生涯学習に対する認知度が低いことが確認されたことから、学齢期から生涯学習に親しむ環境づくりの整備に努められたい。

3　人生100年時代における社会人のリカレント教育（社会人の学び直し）や、郷土について学び「あつぎ愛」を醸成する講座の提供を充実し、生涯にわたって学び続け、よりあつぎで豊かに生きることができる環境を整備されたい。
　また、生涯学習で得た知識や技能を他者と共有し、学びの成果を発表したり、学びから得た知識等を活用して地域活動やボランティア活動などに参加するなど、学びを通して人と人がつながる環境の整備や、生涯学習活動団体への支援を進められるよう努められたい。

4　時間に制約のある市民などのためにオンライン講座や電子図書館などの新たな学習環境の充実を図る一方で、誰一人取り残されないよう、身近な公民館等における対面での交流や学習の重要性も十分踏まえ、各地域の特性にあった講座、イベント等の提供に努められたい。
　また、企業においても従業員へのリスキリングの推進や生涯学習への取組の支援を行い、個人・社会のウェルビーイングの創造につなげるよう周知されたい。

5　厚木市に住み始めたばかりの市民は、学び合うことで知り合いができ、あつぎ愛が生まれたり、厚木市に長く住んでいる市民は、厚木への愛着から学び合いに参加したりと、あつぎ愛と学び合いに対する考え方や取組の契機は様々であるが、あつぎ愛と学び合いの相乗効果により、基本理念の目標である人と人がつながり、市民一人一人が幸福感を高め、誰もが豊かな心で暮らせるあつぎの実現を明確に示すため、基本理念の「学び合い」と「あつぎ愛」の間に「×」を入れ、「学び合い　×　あつぎ愛　豊かな心になれるまち」とされたい。

6　計画書の作成においては、専門用語に注釈を加えるなど、市民にとって分かりやすい構成となるよう努められたい。
　生涯学習の本質である、学ぶきっかけを得て学習し、その学びを他者に伝えることで知識を共有し、自らの活動にも生かしていくという循環の姿を図で示すことが望ましい。また、学習の場として、公民館やオンラインなど多様なつながり方が存在することも、循環図の中で視覚的に表現し、理解しやすい計画書となるよう工夫されたい。